

山形県農林水産技術会議会長 殿

山形県知事 吉村 美栄子

農作物の優良品種の改廃について（諮問）

消費者の多様なニーズや内外の産地間競争の激化に対応した農畜産物の生産を推進するため、山形県農林水産技術会議条例第 2 条の規定により、下記について諮問いたします。

記

1 果樹優良品種の改廃について

りんご「ファーストレディ」を優良品種から除外する。

【諮問の内容】

りんご「ファーストレディ」は、平成 23 年に優良品種に採用され、平成 27 年には 72.5ha で栽培されたが、近年の夏季の高温や春先の降霜等の気候変動に伴い生産量が安定しないことから令和元年には栽培面積がほぼ半減したため、優良品種から除外する。

## りんご品種「ファーストレディ」の生産状況について

## 1 品種特性（平成 21 年 3 月 2 日品種登録）

- (1) 交配親：「さんさ」×「つがる」（交配年：平成 6 年）
- (2) 収穫期は 8 月下旬～9 月上旬で、「つがる」より 5 日程度早い。
- (3) 果形は円形、果実重は 300 g 程度である。
- (4) 果皮色は濃赤色で、縞が入り、平坦地でも容易に着色する。肉質は硬く、歯ざわりが良い。
- (5) 糖度は 14%前後、酸度(リンゴ酸換算)は 0.3%程度で、甘味・酸味とも多く、早生種の中では食味が優れる。
- (6) 主要品種の受粉樹として利用できる。
- (7) 気象条件等によっては、みつ症果やさび果の発生がみられる。



## 2 生産振興の経緯

- (1) 奨励品種決定調査段階から、食味が優れる早生品種としての期待の声が大きく、平成 19 年に系統名「山園 A 2 号」で有望品種、平成 23 年には品種名「ファーストレディ」で優良品種として位置付けられた。
- (2) 「ファーストレディ研究会」（生産者で組織。事務局は JA 全農山形。H24. 5 発足。会員数（138 名））を中心に、技術普及や流通・販売対策推進等総合的に取り組んできた。
- (3) 早生品種としては、外観、食味とも良好であることから、現在主力の「つがる」と差別化できる品種として市場のシェア獲得を目指してきたが、近年の温暖化により、7～8 月が高温で経過する年が多く、商品化率が不安定で、収益性の課題が顕在化していた。
- (4) 商品果率低下に伴う生産者数の減少や県外を含めた苗木供給本数の減少等が進んでおり、H28 年以降の出荷数量も減少にあることから、「ファーストレディ研究会」は、H30. 4 月に解散した。
- (5) 一部、生産者は栽培を続けているが、令和 3 年は、降霜によるさび果が多く発生し、出荷量は前年 15.5 t に対し 3.3 t に減少した。

## 3 「ファーストレディ」の生産・販売状況

- (1) 栽培面積
  - ・令和元年の栽培面積は、35.2ha となっており、みつ症果やさび果等のロスが多いことから、ピーク時の平成 27 年 72.5ha と比較して半減している。
- (2) 出荷・販売状況
  - ・早生種の中でも、食味が良く、市場評価が高いものの、市場へのお荷量が安定せず、平成 28 年の 30.7 t をピークに減少している。

優良品種の栽培面積の推移 (ha)

品 種	H26	R1
ファーストレディ	72.0	35.2
秋 陽	67.2	60.7
シナノスイート	72.2	74.5
昂 林	146.0	142.3

※農林水産省「特産果樹生産動態等調査」